

第2回 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	令和6年9月27日（金）13時30分～18時30分
開 催 場 所	1 緑区精神障害者生活支援センター 2 中区精神障害者生活支援センター
出 席 者	伊東委員、池田委員、田中委員、西川委員、平濱委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開（傍聴者0人）
議 題	1 議事（選定評価委員会について） (1) ヒアリングについて 2 議事（栄区精神障害者生活支援センター） (1) 施設職員・委員自己紹介 (2) 施設見学 (3) 施設概要等説明 (4) 書類確認及びヒアリング (5) 評価の審議 3 議事（鶴見区精神障害者生活支援センター） (1) 施設職員・委員自己紹介 (2) 施設見学 (3) 施設概要等説明 (4) 書類確認及びヒアリング (5) 評価の審議 4 その他
決 定 事 項	なし
議 事 (緑 区)	【主な質疑内容】 委 員：評価シートの中に「配慮が必要な職員」とあるが、今までこのような方がいたのか、また法人内での人事異動、職員間での人事交流が積極的に行われているか教えていただきたい。 指定管理者：基本的には新入職員が該当する。新人職員が入職した際に主任、副主任の中からスーパーバイザーを配置し、敵機的に面談を行っている。その報告（体調面、支援上の課題等）を所長主任会議の際に報告してもらっている。また本人から希望があれば、異動や人事交流も実施している。 委 員：来館者数が他と比べて少ないが、どう考えているか。 指定管理者：最近では生活支援センター以外にも行けるところが増えた。来館する利用者からも通うところを探してほしい等、目的をもって来る方が多い。開所したときと生活支援センターの目的や方向性も変わってきていると考え

	ている。 委員：食事サービスを毎日提供していなのはなぜか。 指定管理者：横浜市のモデル事業として、平成 26 年度から食事提供の日数を減らし、その分アウトリーチや相談支援事業を増やすよう対応した。 委員：アウトリーチについて、どのように考えているのか。 指定管理者：こちらから出向くことは大事と考えている。センター内では見えない、外での本人の関係性や活動が見えてくる。 委員：ピアサークル活動は実施しているか。 指定管理者：実施している。当事者みんなで協議しながら進めており、参加者の入れ替わりもあるが、様々な作品を作っている。職員も一緒に行っている。 委員：ピアスタッフは在籍しているか。 指定管理者：常勤職員に欠員がないため、ピアスタッフの配置ができない。局の研修・勉強会には参加し、改めて検討していきたいと考えている。 委員：職員による館内外巡回による安全確認を 1 日に 5 回実施しているとのことだが、どのように行っているか。 指定管理者：職員の出退勤の際に利用者の様子も含め見て回るようにしている。 委員：ケアプラザとの連携について教えていただきたい。 指定管理者：ケアプラザごとの担当は設けていないが、個別出張相談や定例カンファレンスを行い、事例の共有・検討を実施している。また家族支援のきっかけづくりという研修を実施する予定である。 委員：自立支援協議会の問題点、ケアプラとの連携における問題点はなにか教えていただきたい。 指定管理者：参加施設が固定してしまっている。施設から口コミで参加をお願いしている。緑区ならではのものはないかと検討しているところである。また、医療機関をどのように巻きこむかが課題と考えている。昨年度から精神部会の事務局に訪問看護に入ってもらっていて、当事者の参加も始めている。 委員：嘱託医相談が少ない原因はなにか。 指定管理者：コロナの流行。今年度は既に 10 件を超えている。 委員：福祉避難所に指定されているが、有事のイメージはあるか？ 指定管理者：地域活動支援センターとの合築施設なので、協力し合いながらやっていきたい。 委員：BCP の訓練については実施しているか？ 指定管理者：所長会でもディスカッションしたが、BCP を更新してさらに実用的なものにしたい。 委員：緑区は自主的な活動が活発な印象だが、現状はどうか？ 指定管理者：バスハイクについては、利用者の希望が強い。コロナがあるので、飲食するような内容は避けている。ソフトボールやソフトバレーなどが強い。
--	---

議 事 (中 区)	委 員：嘱託医相談の件数が伸び悩んでいるように感じるが理由はなにか。 指定管理者：需要があまり感じられない。開所時も月2回のミニマムスタートとしていた。訪問時に嘱託医にも同行してもらうことは計画していたが、利用者から断りがあった。アウトリーチの観点からも、嘱託医の同行訪問はしたいと考えている。 委 員：アウトリーチについて、訪問同行に件数が伸びているがどう考えているか。 指定管理者：開所の際に家族会からも「来れる人よりも来れない人へのアプローチを何とかしてほしい」という要望があった。その要望の下、動いているが、センター内の職員体制が手薄になってしまうリスクもあるので、難しいなと感じている。 委 員：登録者のうち寿地区の方はどのくらいいるか。 指定管理者：だいたい3割くらい。バスが1時間に1本と交通の便があまりよくないため、開所したときはもう少し少なかったが、最近は増えてきたと思う。 委 員：寿地区の方への対応で困っていることはあるか。 指定管理者：貼り紙をしているが、お風呂場で喫煙をして、吸い殻を排水溝や窓から捨てて、近隣から苦情が来たりしていた。また家庭ごみの持ち込みもあった。 委 員：職員数について、基本的に常勤化しているが、非常勤職員が1名いるのはなぜか。 指定管理者：本人の希望（週4勤務）によるもの。法人としては同一労働同一賃金の考えから常勤として雇用したいと考えている。 委 員：ピアスタッフの雇用についてはどのように考えているか。 指定管理者：ピアスタッフについては、ピアの会等、ピアに関する様々なことを行っているため、雇用についても検討している。 委 員：アウトリーチについて、どのように対象者を発掘しているか 指定管理者：地域ごとにチームを作って動いている。ケアプラから情報共有があって動くこともある。また、自立支援協議会については必ず1名は参加し連携を図っている。 委 員：家族支援についてはどのように取り組んでいるか。 指定管理者：家族会の1回が家族教室となっているが、取り組み方については区と検討している最中である。 委 員：中区における8050問題についてはどのように考えているか。 指定管理者：ケアプラと連携を図りながら取り組んでいる。研修なども行う予定である。 委 員：特定相談支援事業にかなり取り組んでいると思うが、ニーズも含めどのくらい受け入れることが可能か。 指定管理者：83件をどのような差配で取り組んでいくかは、区からの依頼によるもの
-------------------------	---

	なので、今後どうなるかは不明。基本的には福祉サービスを利用している方がほとんどであり、地域によって対応内容がガラッと変わる。バスか自転車で行けるのは中区の強みだが、環境によって対応の仕方が異なってしまうのは苦慮している。 委員：職員へのフォローとしてどのようなことを行っているか。 指定管理者：様々な利用者がいて、大変なことも結構あるので、疲弊する職員もたくさんいる。職員会議でも臨床心理士の方に来ていただいて職員フォローの研修等も実施している。 委員：緊急時の対応について教えていただきたい。 指定管理者：みはらし（基幹相談支援センター）と一緒に災害時の動き方について小冊子をまとめた。合築施設として、一緒に訓練を行ったり、定期的に、福祉避難所の受入れの訓練を区役所主導で実施している。 BCPを作る際も「どういう想定で作るのか」等いろいろ苦慮した。普段の定期的な避難訓練に加え、BCPを加味した訓練を行っていききたい。 委員：コロナを契機に在りようが変わったり、進めていたことが止まったりした印象がある。中区はどうか。 指定管理者：軸としては変わっておらず、基本的に訪問やアウトリーチを実施している。以前、実習生から利用者の言葉で、「中区の職員は必要以上に今日どうなの、こうしなさい、ああしなさいと言ってこない。その距離感がよい。」という話を聞いた。利用者自身が判断して、何か手助けが必要などときには向き合って対応するスタンスを継続していきたい。
資 料 ・ 特 記 事 項	1 資料 (1) 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会委員名簿 (2) ヒアリング時役割分担 (3) 横浜市精神障害者生活支援センター評価総括表 (4) 当日準備資料一覧 (5) 横浜市緑区精神障害者生活支援センター事前提出資料 (6) 横浜市中区精神障害者生活支援センター事前提出資料 2 特記事項 なし